中学校の学区変更資料

資料　1

①西岐波中・常盤中シミュレーション

【案1】西岐波中に常盤全区

西岐波中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	189	164	185	538
学級数	6	5	6	17

常盤中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	151	153	140	444
学級数	5	5	4	14
生徒数	168	174	158	500
学級数	5	5	5	15

（見初と岬小が統合した場合の児童数を考慮）

【案2】常盤中に常盤全区

西岐波中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	110	99	110	319
学級数	4	3	4	11

《参考》令和4年度の学級数：西岐波中13学級、常盤中17学級

常盤中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	242	218	215	675
学級数	7	7	7	21
生徒数	259	239	233	731
学級数	8	7	7	22

（見初と岬小が統合した場合の児童数を考慮）

②神原中・上宇部中シミュレーション

【案1】神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）

神原中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	106	118	130	354
学級数	4	4	4	12

《参考》令和4年度の学級数：神原中7学級、上宇部中12学級

上宇部中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	97	90	99	286
学級数	3	3	3	9

【案2】神原中に神原・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）

神原中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	89	97	112	298
学級数	3	3	4	10

《参考》令和4年度の学級数：神原中7学級、上宇部中12学級

上宇部中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	97	90	99	286
学級数	3	3	3	9

【案3】神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）・岬（区域変更考慮後）

神原中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	121	147	152	420
学級数	4	5	5	14

上宇部中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	97	90	99	286
学級数	3	3	3	9

《参考》令和4年度の学級数：神原中7学級、上宇部中12学級

③常盤中・（仮）見初中・上宇部中シミュレーション

常盤中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	216	191	204	611
学級数	7	6	6	19

（仮）見初中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	合計
生徒数	78	80	90	306
学級数	3	3	3	9

上宇部中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	140	154	164	306
学級数	4	5	5	14

資料　２

◆適正化モデルシュミレーション

【市街地地域】

モデル１　（中学校の学区変更案②神原中ブロック　案1想定の適正化）

1　対象校　：　見初小・神原小・琴芝小・神原中

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
見初小	7	12	13	13	15	11	71	1	1	1	1	1	1	6
神原小	28	25	25	29	28	31	166	1	1	1	1	1	1	6
琴芝小	62	49	61	78	82	90	422	2	2	2	3	3	3	15
神原中	63	53	65				181	2	3	3				8

2　適正化後の児童数・学級数

◆案1

対象校　：　　見初小・神原小

学校の位置　現神原小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	35	37	38	42	43	42	237
学級数	1	2	2	2	2	2	11

◆案2－1

対象校　：　　見初小・神原小・琴芝小

学校の位置　現琴芝小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	97	86	99	120	125	132	659
学級数	3	3	3	4	4	4	21

◆案2-2　　（琴芝小の児童数は選択区域、再編候補区域児童数を減した人数）

対象校　：　　見初小・神原小・琴芝小

学校の位置　現琴芝小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	86	80	83	107	105	113	574
学級数	3	3	3	4	3	4	20

◆案3-1　　施設一体型小中一貫校

対象校　:　　見初小・神原小・琴芝小・神原中

学校の位置　現　神原小・琴芝小

	令和10年度推計											
	小学校							中学校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
児童・生徒数	97	86	99	120	125	132	659	106	118	130	354	学級数計
学級数	3	3	3	4	4	4	21	4	4	4	12	33

◆案3-2　　（施設一体型小中一貫校）

対象校　:　　見初小・神原小・琴芝小・神原中

学校の位置　現　神原小・琴芝小

	令和10年度推計											
	小学校							中学校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
児童・生徒数	86	81	87	110	110	117	591	106	118	130	354	学級数計
学級数	3	3	3	4	4	4	21	4	4	4	12	33

（琴芝小の児童数は選択区域、再編候補区域児童数を減した人数）

モデル2 （中学校の学区変更案②神原中ブロック　案2・3想定の適正化）

1　対象校　：　見初小・神原小・琴芝小・岬小

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
見初小	7	12	13	13	15	11	71	1	1	1	1	1	1	6
神原小	28	25	25	29	28	31	166	1	1	1	1	1	1	6
琴芝小	62	49	61	78	82	90	422	2	2	2	3	3	3	15
岬小	15	19	16	20	16	27	113	1	1	1	1	1	1	6
神原中	63	53	65				181	2	3	3				8

2　適正化後の児童数・学級数

◆案1

対象校　：　神原小・琴芝小

学校の位置　：現琴芝小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	79	68	70	94	90	102	503
学級数	3	2	2	3	3	3	16

（琴芝小の児童数は選択区域、再編候補区域児童数を減した人数）

対象校　：　見初小・岬小(1)

学校の位置　：岬小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	29	42	38	51	45	51	256
学級数	1	2	2	2	2	2	11

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域(13区、5－1区)を増した人数）

対象校　：　見初小・岬小(2)

学校の位置　：岬小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	36	52	41	59	56	65	309
学級数	2	2	2	2	2	2	12

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域を増した人数）

◆案2　施設一体型小中一貫校

対象校　：　神原小・琴芝小・神原中

学校の位置　：現　神原小・琴芝小

	令和10年度推計										
	小学校							中学校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計
児童・生徒数	79	68	70	94	90	102	503	88	97	109	294
学級数	3	2	2	3	3	3	16	3	3	4	10

対象校：見初小・岬小については案1と同じ

モデル3　（中学校の学区変更案③（仮）見初中ブロック想定の適正化）

1　対象校　：　　見初小・神原小・岬小

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
見初小(神原小)	6	9	9	6	6	6	42							
見初小(岬小)	1	3	4	7	9	5	29							
見初小(計)	7	12	13	13	15	11	71	1	1	1	1	1	1	6
神原小	28	25	25	29	28	31	166	1	1	1	1	1	1	6
琴芝小	62	49	61	78	82	90	422	2	2	2	3	3	3	15
岬小	15	19	16	20	16	27	113	1	1	1	1	1	1	6
恩田小	87	117	79	125	104	114	626	3	4	3	4	3	4	21
常盤小	81	65	98	63	72	73	452	3	2	3	2	3	3	16
上宇部小	91	100	100	91	76	111	569	3	3	3	3	3	4	19

2　適正化後の児童数・学級数

◆案1（見初小は国道190号線を境に神原小と見初小に分かれて就学）

対象校　：　　見初小・神原小

学校の位置　：　　現神原小（将来的に現琴芝小）

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	34	34	34	35	34	37	208
学級数	1	1	1	1	1	2	7

（見初小の児童数は国道190号線より北側の地域の人数）

対象校　：　　見初小・岬小(1)

学校の位置　：　　岬小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	23	33	29	45	39	45	214
学級数	1	1	1	2	2	2	9

（見初小の児童数は国道190号線より南側の地域の人数）

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域(13区、5－1区)を増した人数）

対象校　：　　見初小・岬小(2)

学校の位置　：　　岬小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	30	43	32	53	50	59	267
学級数	1	2	1	2	2	2	10

（見初小の児童数は国道190号線より南側の地域の人数）

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域を増した人数）

◆案2ー1　施設一体型小中一貫校

対象校 ：　見初小・神原小・岬小・仮称見初中（旧神原中）

学校の位置　現見初小

	令和10年度推計											
	小学校							中学校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
児童・生徒数	57	67	63	80	73	82	422	100	94	111	306	学級数計
学級数	2	2	2	3	3	3	15	3	3	4	10	25

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域(１３区、５－１区)）を増した人数）

◆案2ー2　施設一体型小中一貫校

対象校 ：　見初小・神原小・岬小・仮称見初中（旧神原中）

学校の位置 ：

	令和10年度推計											
	小学校							中学校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
児童・生徒数	64	77	66	88	84	96	475	109	104	119	332	学級数計
学級数	2	3	2	3	3	3	16	4	3	4	11	27

（岬小の児童数は恩田小の選択区域と再編候補区域を増した人数）

学区変更のメリット・デメリット

資料　３

◆西岐波中・常盤中ブロック

学区			案	メリット	デメリット
西岐波中	常盤中		【案１】 西岐波中に常盤全区	・常盤全区を含めることにより、10年度の西岐波中の学級数は、現状の15学級から17学級となる見込みであるが、適正規模の範囲。 ・現状常盤小の3分の2の児童が、西岐波中に進学しており、常盤小は西岐波中と連携性を持っている。	・西岐波中に通学する方が、距離が遠くなる生徒が多い。
			【案２】 常盤中に常盤全区	・常盤中に通学する方が、距離的に近い生徒が多い。	・10年度の常盤中の学級数は21学級となる見込みであり、適正規模基準を超える。
			共通	・進学先が1つになることで小中一貫教育が推進される。	・通学距離は、概ね4キロ以内であるが、通学距離が遠くなる生徒がいる。 ・小中一貫教育以外の課題がないため、常盤小校区から、それぞれの中学校に通学する人数に顕著な偏りが見えた段階の着手でないと、両地域の保護者・住民の理解が得にくい状況はある。

◆神原中・上宇部中ブロック

学区			案	メリット	デメリット
神原中	上宇部中	（参考）常盤中	【案１】 神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）	・直前の３地域からの要望と一致している。(3小1中の義務教育学校の設置要望) ・琴芝小の児童が琴芝地域にある神原中学校に進学することができる。 ・10年度の神原中の学級数は12学級（もしくは11学級）となる見込みであるが、多目的教室を普通教室とすることで、現行校舎で対応が可能	・見初小と神原小は、適正化の検討対象校だが、見初小と神原小を統合しても２学級に満たない学年がある。（適正化モデル１案１） ・見初小・神原小・琴芝小が統合した場合21学級となり、適正規模基準を超えるとともに、琴芝小だけでは教室の確保が困難。（適正化モデル１案2-1または2-2） ・見初小・神原小・琴芝小と神原中の3小1中（小中一貫校）の見込学級数は33学級で過大規模校となるため、当面の設置は困難。
			【案２】 神原中に神原・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）	・琴芝小の児童が琴芝地域にある神原中学校に進学することができる。 ・常盤小が西岐波中に進学することを想定した場合、神原中・上宇部中・常盤中ともに適正規模の範囲内。 ・神原小と琴芝小が統合した場合全学年２～３学級となる。(適正化モデル２案１) ・見初小と岬小が統合した場合、恩田小の選択区域等の変更を合わせて行った場合、全学年が２学級程度となる。(適正化モデル２案２または３)	・見初小の児童は、常盤中に通学することになり、通学距離や地形的に通学の負担が増える。 ・見初小が岬小と統合した場合、通学距離が現在より長くなる児童が多くなる。(適正化モデル２案２または３)
			【案３】 神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）・岬（区域変更考慮後）	・琴芝小の児童が琴芝地域にある神原中学校に進学することができる。 ・岬小の児童の通学の負担が軽減される。 ・神原小と琴芝小が統合した場合全学年2～3学級となる。(適正化モデル２案１) ・見初小と岬小が統合した場合、恩田小の選択区域等の変更を合わせて行った場合、全学年が2学級程度となる。(適正化モデル2案2または3)	・神原中が14学級となり、教室数が不足する。

◆常盤中・（仮）見初中・上宇部中ブロック

常盤中	仮称見初中	上宇部中	神原中を現見初小の位置に 移動し新たなブロックを編成	・各小中学校の施設が、有効活用できる。 ・見初小の児童は、それぞれの居住地から近い小学校に通学できる。 （適正化モデル3案1） ・2小学校の中心に中学校が配置されることにより、より体験的な小中連携が可能。	・私立中学への進学等により、1割程度は減少する見込みがあるが、常盤中は19学級となり、適正規模基準を超過する。 ・見初小（国道より北側の地域の児童）と神原小を統合しても、ほとんどの学年が1学級となり、適正規模基準を下回る。 ・見初小校舎の大規模な改修が必須であり、詳細な検討が必要。